

ご縁の国 出雲で会いたい おすすめの野鳥たち

秋～冬

コハクチョウ 小白鳥



翼を広げると2mほど、体重5kg前後になります。家族単位で生活しており、家族が集まり群れをつくります。コホーコホーと盛んに鳴いているのは、家族の様子を確かめ合っているからだと言われています。昼間は水田で落ち籾などを食べて過ごし、夜になると、水の張っている水田や河川の浅瀬で眠ります。水面を足で蹴りながら飛び立つ姿は迫力があり、長い首を伸ばして飛ぶ姿はとても優雅です。

ナベヅル・マナヅル 鍋鶴・真鶴



鍋の底についた煤のような黒い色をしたナベヅル、本当のヅルという意味でつけられたと言われるマナヅルの2種が、稀に出雲にやって来ます。いつも家族で行動するほど絆が深く、一度夫婦になると死ぬまでその相手と一緒に添い遂げます。縁結びの国出雲でぜひ出会ってみたい鳥です。

マガン 真雁

天然記念物



翼を広げると1.5mほど、体重2.4kg前後になります。彼らの行動はとても規則正しく、日の出とともに宍道湖から飛び立ち、斐伊川の河口にある水田で落ち籾などを食べて過ごします。そして日の入りになると、隊列「雁行（がんこう）」をつくりながら、宍道湖へ向かって一斉に飛び立っていきます。このように群れが飛び交う姿は、西日本では出雲平野でしか見ることができません。特別な冬の風物詩です。

ヒシクイ 菱喰

天然記念物



マガンよりひと回り大きいガンの仲間です。名前の通りヒシの実も食べますが、出雲のヒシクイは、主に水田で落ち籾や雑草などを食べているようです。夕方になると、斐伊川の中州などで眠っています。出雲のヒシクイは、東北にいる同種とは異なる独特の渡りのルートをもっており、学術的にも高い関心が寄せられています。謎に包まれたこのヒシクイ、マガンと比べて数が少なく、うまく見つけられたら幸運といえるでしょう。

キンクロハジロ 金黒羽白



黄色い目と、黒い頭と背中、翼にある白い帯、見た目を合わせて付けられた名前のキンクロハジロ。水中を潜ることができ、宍道湖の名物ヤマトシジミを主食としています。宍道湖には毎冬に数千羽以上が集まってきており、その数は日本有数です。特に夜明けに群れで飛び交う姿は圧巻です。

タゲリ 田鳧



頭や背に金属の光沢があり、頭の後ろに伸びる飾り羽がとても美しい鳥です。開けた水田の上を、先の丸い翼でふわふわと飛ぶと同時に聞こえる鳴き声は、なんとネコのようなミューという声です。この目立つ姿も、水田に入ると意外と見つけにくく、飛んだときの特徴的な姿を見つけるのが、会うためのポイントです。

夜明けの斐伊川河口に集まるマガンの群れ



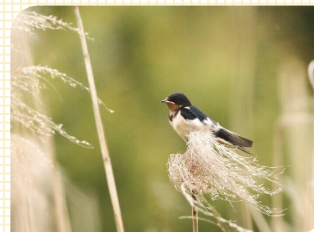
春～夏

ウミネコ 海猫



カモメの仲間としては中型ですが、翼を広げると1m以上にもなります。日御碕の経島（ふみしま）は、ウミネコの繁殖地として国の天然記念物にも指定されており、春になると数千羽が飛来します。その名前の通り、「ミャーミャー」と猫に似た鳴き声を上げながら、荒波の間を潜り抜けるように飛び交う大迫力の景色が楽しめます。

ツバメ 燕



初夏になると、子育てのために南から渡ってきます。空中に飛ぶ虫を食べることから、稲作の害虫を食べてくれる益鳥として大切にされてきました。家の軒先などの身近なところでの子育てが終わると、斐伊川のヨシ原で集団のねぐらを作ります。その数はなんと数千以上！一斉に舞い飛ぶ姿は壮観です。

通年

コウノトリ 鶴



特別天然記念物

明治前期まで全国の里地里山で暮らしていましたが、乱獲や環境の悪化などが原因で、1970年ごろに一度日本の空から姿を消しました。現在では兵庫県豊岡市をはじめとする全国各所で野生復帰の取り組みが進められています。水田を少しずつ歩きながら、嘴の感覚を頼りにドジョウなどの魚介類や昆虫などを探します。

ダイサギ 大鷺



「シラサギ」とよく呼ばれる白いサギのうち、最も大型なのがこのダイサギです。斐伊川の中州や、その周りの水田など、いたるところでじっとしている姿が見られます。しかし実は寝ているわけではなく、獲物の魚やザリガニ、カエルが近くに来るのを待っていることがほとんどです。ゆっくりと羽ばたきながら飛ぶ姿はとてもきれいです。

セグロセキレイ 背黒鶺鴒



名前の通りの黒い背中と、白い眉のような線、ジッと濁った声の特徴です。「国産み神話」のイザナギとイザナミは、セキレイを見て夫婦和合の方法を知り、次々と子ども（＝国や神）を産んだと『日本書紀』に記されており、神話の国出雲とも縁深い鳥です。日本の固有種でもあるこのセグロセキレイが、その神話のモデルだったかも。そんな想像をしながら探してみませんか。

ホオジロ 頬白



農耕地や河原などの明るく開けた場所で一年中見ることができます。冬は目立たない「チッチッチッ」という声ですが、春になると木の枝先や電線などの目立つ場所でさえずります。そのさえずりは「一筆啓上仕り候」、「源平ツツジ白ツツジ」、「札幌ラーメン味噌ラーメン」などと聞こえるそうです。どう聞こえるか、実際の声を聴いてみてください。

宍道湖へそそぐ斐伊川の流れ

斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

企画・写真：（公財）日本生態系協会